



PSI Troubleshooting FAQ

Introduction:

PSIは1977年からモニター、1993年からアクティブモニターを製造しており、販売後の問題はほとんどありません。

すべての製品は、工場を離れるときに個別にテストおよび調整されます。製品は完全な状態で送られ、PSIの仕様に従って完全に校正されています。

通常の使用状態では、PSI製品は長期間にわたって非常に安定しており、サービスや再校正の必要はありません。

以下は、何十年にもわたってお客様から寄せられたコメントへの回答です。販売後のコメントの大部分は、環境とセットアップに関するものであり、モニター自体に関するものではありません。

モニターが機能せず、LEDが消灯している：

- 別のデバイスのコンセントを確認してください。
- 電源ケーブルを取替えて下さい。
- ヒューズを確認してください。

LEDが緑色になっているがモニターが機能しない：

- XLRに直接音源を接続してみてください。
- すべてのケーブルおよびテストしてください。

LEDが赤でモニターが機能しない：

モニターは過負荷から保護されています。LEDが赤色になる場合、モニター内部のリミッターが動作していることを示します。これはリスニングレベルを下げる必要があることを示します。

LEDが赤くなりモニターがオフになるには、2つの理由があります。

オーバーヒート：背面パネルが約60°C（140°F）に達すると発生します。背面パネルが熱くなっている場合、これは正常です。モニターが熱源の近くになく、背面パネルに周囲の空気循環を可能にする十分なスペースがあることを確認してください。

再生されるオーディオコンテンツとレベルによってモニターが熱くなり、モニター自体を保護できるのは正常です。冷めると通常に戻ります。

PSC（ファントムスタンバイコントロール）：直流（DC）信号により、モニターがスタンバイモードになり、LEDが赤に変わります。デバイスをスタンバイモードに切り替える機能が働いている事が





考えられます。XLRを取り外すとLEDが緑色に戻る場合は、XLR信号にDCがあることを意味します。

モニターがアイドル時にヒス音を立てる

”アイドル時”とは、モニターがオンでスタンバイモードに入っていないが、音が出ていない状態のことを意味します。

10 cm離れて約26 dBのわずかなバックグラウンドノイズは正常であり、通常のリスニング距離での音楽信号と比較すると無視できるはずです。

トランスノイズ

PSI 製品は最高級の低ノイズ トロイダル トランスのみを使用しています。

トランスからのハムは、10 cm離れて約26 dBで、磁歪によって引き起こされます。より大きなハムまたは散発的なハムは通常、次のような主電源の変動によって引き起こされます：

- 主電圧の変動
- 主電源の直流
- 主電源の高調波

これらは、主電源の電圧の品質に起因しており、グリッドおよび同じ電源に接続されている他の機器によっても影響を受けている可能性があります。

電源の“クリーニング”に非常に効果的な多くのフィルターが存在しますので利用してください。

モニターからの異音

異常な音はさまざまなソースから発生する可能性があります。最初のステップは異常な音の発生源を特定することです。

- モニターが安定した表面に配置されていることを確認してください。
- モニターの位置、電源ケーブル、XLRケーブルを交換します。
- すべてのネジが締まっていることを確認してください：ドライバー、バックパネル、XLR
- XLRケーブルを取り外してください。ノイズが消えた場合は、信号の品質、モニターとXLRの両方の接地状況を確認してください。
- 背面パネルとトランスから来るノイズは、ほとんどの場合、主電源によるものです。別の電源コンセントに接続してモニターをテストしてください。別の場所でテストを行って下さい。多くの場合、ノイズは主電源の直流および/または高調波から発生します。多くの電源用フィルターが存在していますので、併用してテストを行ってみて下さい。
- キャビネットの側面から発生するノイズは、内部のケーブルが緩んでいる可能性があります。PSI Audio デイラーにお問い合わせください。





オンとオフを切り替えるときのノイズ

PSI 製品は完全にアナログで、コンポーネントはマッチングされており、すべてのアイテムは工場から出荷される前にテストと調整が行われています。

機器は電源を入れてから最初の1~2秒後に機能するまでの間は非常に厳密ですが、電源のオン/オフプロセスはそれほど重要ではありません。

PSIでは、最終キャリブレーション中に、電源オン/オフノイズがスイッチ自体の音よりも大きくないことをテストしています。これはラボでの基準ですが、設定によって異なる場合があります。ノイズはユニットごとに異なり、電源やグラウンドおよびその時に主電源に接続されている他のデバイスによっても異なります。

電源オン/オフプロセス中の多少の大きな“ポップ”はすべてのアナログデバイスに共通して起こる事象であり、心配する必要はありません。

それは正常であり、デバイスでノイズの多い電源をオンまたはオフにすることによるリスクはありません。ユニットの機能や劣化には影響しません。

設置

理想的なステレオセットアップは、リスニングポジションと2つのモニターの間に正三角形をセットアップすることによって実現されます。これは、モニターとリスニング位置の間と同じようにモニター間の距離を取ることを意味します。

部屋に設置すると、直接音だけでなく部屋からの最初の反射と残響も聞こえます。直接音は音源についての情報を提供し、間接音は現在の部屋についての情報を提供します。

最も重要なことは、一次反射が直接的な音よりも低い周波数で拡散周波数で発生することです。これにより、脳は直接音と間接音を分離できます。

低い周波数では、スタンディングモードは部屋に高圧ゾーンと低圧ゾーンを生成します。高圧または低圧ゾーンに配置されたモニターは、非常に異なる放出をします。高圧ゾーンまたは低圧ゾーンに配置されたリスナーは、非常に異なる低周波数の聴覚を持つことになります。

高圧領域と低圧領域は、各スタンディングモードで異なります。さらに最初のモードの上では、それらを予測することは事実上不可能です。

ただし、リスニング位置またはモニターを20 cmだけ移動すると、低周波数のリスニング品質が大幅に変わる可能性があります。適切なリスニングセットアップには試行錯誤を繰り返す必要があります。





トラブルシューティングについては お問い合わせください

上記の点を確認しても問題が解決しない場合はお問い合わせください。サポートさせていただきます。

シリアル番号と問題と状況の簡単な説明をメールでお知らせ下さい。アドバイスを差し上げます。

弊社からRMA（Return Merchandising Authorization）を取得するまでは、製品を返送しないでください。

梱包に関する特記事項

取り扱いの悪さや製品の損傷を防ぐため、商品は常にパレットで発送しています。これにより運送会社は個々のカートンを投げるのではなく、フォークリフトを使用することになります。ペアで出荷されるA14-MとA17-Mなどの小型のモニターの場合、衝撃吸収材と一緒に2重箱で梱包しています。

出荷する際の損傷を避けるため、すべてのセールス パートナーと顧客に同じ手順を実行するようお願いいたします。パレットで出荷するか、衝撃吸収材と一緒に2重箱で梱包してください。

すべてのテクニカルサポートのメール：support@psiaudio.swiss